

7月度「京都学ラウンジ ミニ講座」(開催報告)

平成30年7月26日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
075-723-4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ ミニ講座」を開催しております。この度7月5日(木)～7月26日(木)にかけて「京都の数学―塵劫記と算額について―」と題して4回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 日 時 平成30年 7月5日・12日・19日・26日
いずれも木曜日13:30～14:00
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ
- 参加者数 13名(5日)、20名(12日)、20名(19日)、24名(28日)
合計 77 名
- 内 容
講師 京都府立京都学・歴彩館 資料課 藤原 直幸
「京都の数学―塵劫記と算額について―」(全4回)
第1講 『塵劫記』の登場
第2講 京都の算額について(その1)
第3講 京都の算額について(その2)
第4講 算木を使ってみよう!

■ 講座の様子

当月は記録的な大雨と酷暑の影響により、参加者の出足が心配されたが、平均20名を越える参加者を得ることができた。

読み・書き・そろばんと言われるように数学(算数)は学問の基礎と位置づけられて久しい。古く古代から実用されていた数学は、江戸時代に「和算」と呼ばれ独自の発展を遂げた。京都、嵯峨の吉田光由が書いた『塵劫記』はベストセラーとなり、寺子屋の教科書になった。本講座では『塵劫記』の紹介から始まり、京都ゆかりの「和算」について紹介した。最終第4講では、参加者に算木を配布して実際に四則演算をしてもらうなどして、和算の世界を体験していただいた。突如、京都学ラウンジに出現した現代の“寺子屋”で、参加者は、現代に生きる我々には扱いにくい算木を講師の説明を聞きながら、賢明に操作していた。講師と参加者が一体となった今月の講座は、本講座の新しいスタイルを生み出したという意味においても大変有意義な講座であった。

